海外果樹農業ニュースレター

（公財）中央果実協会 (03) 3586-1381

写真：香港の高級スーパーにおける果実売り場

果樹産業の動向

米国ワシントン州で有機栽培リンゴが急拡大

Good Fruit Grower誌(2018年1月号)

ワシントン州産の有機栽培リンゴの価格と慣行栽培リンゴの価格差は拡大している。ワシントン州立大学の持続的果樹業及び天然資源センターのデーターによると、ワシントン州の栽培面積の大きな主要5品種（オーガン、「ふじ」、「ハニクルス」「グラニースミス」、「レッドデリシャス」）の2007-12年の価格の推移をみると、全て有機栽培リンゴの価格が慣行栽培リンゴの価格を大きく上回っている。

有機栽培の価格が慣行栽培の価格を1箱当たり20〜25ドル上回っていることから、生産者は引き続き果園の有機栽培認定の取得を目指しており、2017年の生産量は1,300万箱に達するものと見られている。

これ迄のところ、慣行栽培から有機栽培への転換は成功したといえるよう。しかし、今年から来年にかけて有機栽培の生産量がかなり増大すると見込まれていることから、これからも果実が有機栽培が遙かに優ると考えられるか、疑問がある。有機栽培認定面積は2016年の16,000エーカーからこの先25,000エーカーに劇的に増加すると見込まれており、生産量が急増して需要を上回ることになれば、有機栽培の価格は低下すると考えられる。

したがって、ワシントン州立大学のGranatstein教授はインタビューで次のように語っている。「今後もこの調子で有機栽培の拡大が続けば、2018年は問題になるかも知れないが、予測可能な将来においては、問題は起こそうにないと思う。有機栽培リンゴに対する需要は年々約10%の伸びを示している。もしこれ迄激激に増大してきた有機栽培ブームにより2018年に供給過剰状態が起こされるとしても、その影響は一時的なものに過ぎず、問題にするほどのことはないだろう。2019年には、有機栽培面積の増大が緩やかになるため、需要が供給を僅かに上回ると言われる」。

以上は、昨年12月に開催されたワシントン州果樹産業協会の年次総会で、教授がワシントン州農業局の有機栽培認証面積および栽培中の果樹面積のデータを基に有機栽培リンゴの先行きについて見通しを示したものである。

しかし、有機栽培への転換の果樹園が、実際に認証取得まで進むかは生産者の判断如何にかかわるものであることから、教授は2017年に選果場を対象にして、彼らが今後の有機栽培面積の増大をどう考えているかを調査した。同教授は次のように語っている。「転換中の果樹園の半数が実際には認証を取得していない。今年、来年と有機栽培として認証を受ける面積は大幅に増加するだろう。そして、その後は落ち着いたものになろう」。

2016年のワシントン州の有機栽培リンゴの生産量は1,130万箱であったが、2017年はやや低下の裏年を見られたことから、ここ数年見られたような大幅な生産量の増大は無いかだろう。
考えられてきた。しかし、2017年の生産量見込みである1,300万箱と、ほとんど予測した以上に高く、そして2018年の生産量は、もう面積の増加に隔年結果の相場が重なれば再び激増もあり得る教授と語っている。

統計によると、ワシントン州の2007/08年の有機栽培リンゴの生産量は全生産量の3.8％だったが、2016/17年には8.2％まで増大した。そして、さらに有機栽培面積は増加する見通し。ここ数年、有機栽培面積（有機栽培認証）は1.5万エーカー水準で推移したが、2020年には2.5万エーカーに達すると見られる。有機栽培への転換中のリソル栽培面積も合せると、2016年時点で全リンゴ栽培面積の実に13.3％に達している。

リンゴ業界では有機栽培は成長分野と言えているが、その拡大テンポが急だと「慣行栽培リンゴの売り上げ減少がなかねない」といわれている。調査によると、消費者の有機栽培果物への需要は今後も増大すると見られている。米国農務省によると、2016年の全米農業機械生産額中に出す有機栽培農産物の割合は23％で76億ドルだという。リンゴについては前年比8％増の3億2,700万ドルとなっている。

世界的に見ると、欧州が依然世界の有機栽培におけるリーダーの地位にある。世界の有機栽培果樹面積の約72％を占めている。ワシントン州の有機栽培面積が世界全体に占める割合は7％である。有機栽培は南米でも増大している。

有機栽培リンゴの生産量は輸出にどう影響を与えるだろうか。教授は、米国産有機栽培リンゴを欧州に売り込むことは難しいだろうと、有機農産物の需要の増大という国内的な動きがアジア地域に波及すれば、米国西海岸のリンゴ産業にとって新たな未来が開かれるだろうと語っている。

現在、ワシントン州の有機栽培リンゴのリソルや有機果実の輸出はほとんどがカナダ向けである。リンゴについては、「ガラ」、「ふじ」を中心に、「ハニクルマス」、「クラニーグラニーズ」、「ブラッドレディエシャ」となっている。「クワズリンゴ」は有機栽培リンゴとして市場に食い込み、地位を確立しつつある。同教授は、ワシントン州立大学が育成し、「コズミッククリスプ(Cosmic Crisp)」という名前で売り出された新種株W338についても有機栽培向け品種としての将来性は高いことが指摘されている。

北西部のコロンビア地域はワシントン州の有機栽培リンゴ生産の中心地で、米国農務省の2017年版ワシントン州果樹栽培面積調査によると、ワシントン州の3,000エーカーに有機栽培面積は実に7,400エーカーに達している。リンゴに比べ有機栽培ナシの生産は、安定的に増加しつつある。2016年現在のワシントン州の有機ナシ栽培面積は全面積の10%強を占め、出荷量は110万箱で、平均出荷価格は1箱37ドルである。また、約400エーカーが有機栽培へ転換中である。

サクラリボンについては、10年前にオウトウシュウジュバエ(spotted wing drosophilae)の被害が大発生し、有機栽培の拡大にブレーキがかかったが、教授によると、オウツシュウジュバエ対策の進展を受けて再び有機栽培認証を受けようという動きが見られるという。2016年現在、有機栽培はワシントン州のサクラリボン生産量の2%で価格は個人消費向けも急速冷凍物も底堅いという。

中国の新年

ASIAFRUIT誌(2017年12月・2018年1月合併号)

中国の新年は、現代の中国本土においては春節として知られているが、中国の最も重要な祭りで、中国の伝統的な暦の変わり目に祝われる。

中国の新年のタイミングは、新たな暦の月の第1日であり、中国暦の1月1日である。前年までの年を1年、次の年の1年を2年と呼ぶ。

中国の新年の習慣は、特に初日の5時から遅くまで続く。年賀状は、伝統的に大変多くの最初の暦の15日の満月を祝う(ランタンフェスティバル)まで続く。

中国と同じように、新年は、台湾、香港、マカオ、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、ロシア、ベトナム、カンボジア及びフィリピンを含む多くの中国人が住む国や地域においても祝われている。世界中で毎年恒例の大量の旅を移動させることのできる祭りである。

伝統的に、お祭りは神をたたえるものであり、現在では、中国の新年のお祭りに関する習慣はかなり多様化している。しかし、中国の元旦前の朝筆は中国の家族にとって恒例の再会の家族の機会となっている。多くの地域においては、新年に先駆けて果物が贈答されるようになり、地域及び世界の果実業界にとってこのお祭りは重要な販売時期となっている。果物の輸入貿易はこの日本の新年のタイミングは極めて重要であり、販売シーズンと合致する可能性もあれば、完全に見逃す可能性もある。2018年の新年は、新年が2月16日に始まり、貿易業界にとっては「連休」と考えられている。しかしながら、中国本土における果実輸入業者にとっては、悪いタイミングは悪いことではない。

「チリ産のサクラリボンとブルーベリーは、伝統的に中国の新年に販売される2大輸入果実だ。中国の新年が遅いことで、これらの果実にとってはより長い販売期間が与えられ、期待を込めて、中国は多くの量を輸入できる」と輸入販売業者Joy Wing Maoの部長代理
2017/18年世界のカンキツ需給

米国農務省海外農業局ホームページ（2018年1月25日公表）

＜オレンジ＞
世界の2017/18年のオレンジ生産量は、前年より400万トン減少し、4,930万トンになると予測される。中国ではやや生産が増加するものの、悪天候により

海外果樹農業ニュースレター
■ 2018年2月発行
ブラジル、EU、米国で生産量が減少するためである。加工仕向け量はブラジル、米国を中心に370万トン減少し、オレンジジュース生産量は前年を16%下回る170万トン(65度ブリックス換算)になると見込まれる。輸出量は前年と同程度であり、生産量の減少は専ら加工仕向け量に影響する見込みだ。

**米国**の生産量は23%も減少し、1997/98年に比べると1/3の水準に落ち込むと予測される。これはブロッサム州を2017年9月に襲ったハリケーンによる果樹、カンキツグリーニング病による生産量の減少、カリフロリ州を襲った熱波の被害によるものである。ブロッサム州産は大部分が加工に向けられ、カリフロリ州産は生食向けである。輸出量、国内生鮮消費量、加工仕向け量はいずれも減少すると見込まれる。

**ブラジル**の生産量は収穫年に当たることから、前年を15%も下回る1,730万トンと予測される。大きが不順であったことから花が少なく果実も悪かった。

生産量は大きく落ち込むものの、2年前に比べれば生産量は多いと予測される。加工仕向け量は290万トン減少し、1,230万トンと見込まれ、オレンジジュース生産量は120万トン(65度ブリックス換算)と予測される。なお、生産量の減少は国内生鮮消費量の減少にあまり影響しないと見込まれる。

**中国**の生産量は、天候に恵まれたことから、前年を30トン上回る730万トンと予測される。国内生鮮消費量、生産量の増加、高級品等に対する輸入需要の拡大から増加すると見込まれる。

**EU**の生産量は、乾燥等の影響があったことから、前年を8%下回る630万トンと予測される。生産量の減少から加工仕向け量及び国内生鮮消費量は減少すると見込まれるが、輸出量及び輸入量は同程度で予測される。

**エジプト**の生産量は、前年を6%上回り、過去最高の320万トンと予測される。輸出量が5%増加し、過去最高の160万トンと見込まれる。2016年11月に行われた通貨切り下げの2年目にして30%も上がることを輸出が増加する要因である。エジプトは世界の輸出量全体の1/3を占めている。

**南アフリカ**の生産量は、前年を2%上回る140万トンと予測される。輸出量は過去最高の120万トンと見込まれ、世界の輸出量の25%を占めている。

**トルコ**の生産量は、前年を3%上回り、過去最高の190万トンと予測される。国内生鮮消費量及び輸出量も過去最高と見込まれる。

**メキシコ**の生産量は前年をやや下回ると予測される。これに伴い、国内生鮮消費量、加工仕向け量も減少が見込まれる。輸出量は米国向けの拡大が期待できることから、7%増加すると見込まれる。

**モロッコ**の生産量は、天候が不順であったため、前年を10%下回る93.5万トンと予測される。輸出量は品質が伴わなかったため、前年より4割減少すると見込まれる。一方、国内生鮮消費量は若干の減少に留まる見込みである。

### 世界のオレンジ需要

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ブラジル</td>
<td>13,936</td>
<td>13,970</td>
<td>14,048</td>
<td>14,114</td>
<td>14,141</td>
<td>14,141</td>
</tr>
<tr>
<td>中国</td>
<td>7,000</td>
<td>7,000</td>
<td>7,000</td>
<td>7,000</td>
<td>7,000</td>
<td>7,000</td>
</tr>
<tr>
<td>E U</td>
<td>5,890</td>
<td>5,850</td>
<td>5,850</td>
<td>5,850</td>
<td>5,850</td>
<td>5,850</td>
</tr>
<tr>
<td>メキシコ</td>
<td>4,400</td>
<td>4,400</td>
<td>4,400</td>
<td>4,400</td>
<td>4,400</td>
<td>4,400</td>
</tr>
<tr>
<td>米国</td>
<td>7,503</td>
<td>7,503</td>
<td>7,503</td>
<td>7,503</td>
<td>7,503</td>
<td>7,503</td>
</tr>
<tr>
<td>エジプト</td>
<td>2,450</td>
<td>2,450</td>
<td>2,450</td>
<td>2,450</td>
<td>2,450</td>
<td>2,450</td>
</tr>
<tr>
<td>トルコ</td>
<td>1,600</td>
<td>1,600</td>
<td>1,600</td>
<td>1,600</td>
<td>1,600</td>
<td>1,600</td>
</tr>
<tr>
<td>南アフリカ</td>
<td>1,659</td>
<td>1,659</td>
<td>1,659</td>
<td>1,659</td>
<td>1,659</td>
<td>1,659</td>
</tr>
<tr>
<td>アルゼンチン</td>
<td>784</td>
<td>784</td>
<td>784</td>
<td>784</td>
<td>784</td>
<td>784</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルガス</td>
<td>530</td>
<td>530</td>
<td>530</td>
<td>530</td>
<td>530</td>
<td>530</td>
</tr>
<tr>
<td>オーストラリア</td>
<td>435</td>
<td>435</td>
<td>435</td>
<td>435</td>
<td>435</td>
<td>435</td>
</tr>
<tr>
<td>カナダ</td>
<td>326</td>
<td>326</td>
<td>326</td>
<td>326</td>
<td>326</td>
<td>326</td>
</tr>
<tr>
<td>アルバマ</td>
<td>152</td>
<td>152</td>
<td>152</td>
<td>152</td>
<td>152</td>
<td>152</td>
</tr>
<tr>
<td>オーストラリア</td>
<td>1,663</td>
<td>1,663</td>
<td>1,663</td>
<td>1,663</td>
<td>1,663</td>
<td>1,663</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>28,933</td>
<td>28,933</td>
<td>28,933</td>
<td>28,933</td>
<td>28,933</td>
<td>28,933</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 加工仕向け量

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ブラジル</td>
<td>10,935</td>
<td>11,832</td>
<td>11,506</td>
<td>9,466</td>
<td>15,259</td>
<td>12,322</td>
</tr>
<tr>
<td>中国</td>
<td>5,470</td>
<td>5,420</td>
<td>5,435</td>
<td>5,406</td>
<td>5,406</td>
<td>5,406</td>
</tr>
<tr>
<td>E U</td>
<td>5,150</td>
<td>5,150</td>
<td>5,150</td>
<td>5,150</td>
<td>5,150</td>
<td>5,150</td>
</tr>
<tr>
<td>メキシコ</td>
<td>1,069</td>
<td>1,069</td>
<td>1,069</td>
<td>1,069</td>
<td>1,069</td>
<td>1,069</td>
</tr>
<tr>
<td>米国</td>
<td>600</td>
<td>600</td>
<td>600</td>
<td>600</td>
<td>600</td>
<td>600</td>
</tr>
<tr>
<td>アルゼンチン</td>
<td>113</td>
<td>113</td>
<td>113</td>
<td>113</td>
<td>113</td>
<td>113</td>
</tr>
<tr>
<td>カナダ</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>アルベリカ</td>
<td>369</td>
<td>369</td>
<td>369</td>
<td>369</td>
<td>369</td>
<td>369</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルガス</td>
<td>85</td>
<td>85</td>
<td>85</td>
<td>85</td>
<td>85</td>
<td>85</td>
</tr>
<tr>
<td>トルコ</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>20,682</td>
<td>20,917</td>
<td>20,272</td>
<td>17,647</td>
<td>22,978</td>
<td>19,242</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 輸出量

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>エジプト</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
<td>1,000</td>
</tr>
<tr>
<td>南アフリカ</td>
<td>1,162</td>
<td>1,162</td>
<td>1,162</td>
<td>1,162</td>
<td>1,162</td>
<td>1,162</td>
</tr>
<tr>
<td>米国</td>
<td>678</td>
<td>678</td>
<td>678</td>
<td>678</td>
<td>678</td>
<td>678</td>
</tr>
<tr>
<td>トルコ</td>
<td>244</td>
<td>244</td>
<td>244</td>
<td>244</td>
<td>244</td>
<td>244</td>
</tr>
<tr>
<td>エジプト</td>
<td>322</td>
<td>322</td>
<td>322</td>
<td>322</td>
<td>322</td>
<td>322</td>
</tr>
<tr>
<td>オーストラリア</td>
<td>127</td>
<td>127</td>
<td>127</td>
<td>127</td>
<td>127</td>
<td>127</td>
</tr>
<tr>
<td>香港</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
<td>45</td>
</tr>
<tr>
<td>メキシコ</td>
<td>82</td>
<td>82</td>
<td>82</td>
<td>82</td>
<td>82</td>
<td>82</td>
</tr>
<tr>
<td>アルゼンチン</td>
<td>77</td>
<td>77</td>
<td>77</td>
<td>77</td>
<td>77</td>
<td>77</td>
</tr>
<tr>
<td>ベルガス</td>
<td>31</td>
<td>31</td>
<td>31</td>
<td>31</td>
<td>31</td>
<td>31</td>
</tr>
<tr>
<td>アルベリカ</td>
<td>83</td>
<td>83</td>
<td>83</td>
<td>83</td>
<td>83</td>
<td>83</td>
</tr>
<tr>
<td>トルコ</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
<td>95</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
<td>190</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>3,889</td>
<td>4,002</td>
<td>4,059</td>
<td>4,456</td>
<td>4,817</td>
<td>4,753</td>
</tr>
</tbody>
</table>
モロッコの生産量は7月・8月に高温に遭遇したため、前年より20％減少し、100万トンと予測される。このため、輸出量も減少が見込まれる。

日本の生産量は、天候に恵まれなかったため、前年を7%下回る99万トンと予測される。国内生鮮消費量も同様に減少が見込まれる。

米国の生産量は、カリフォルニア州で天候が不順であったことから、前年を1%下回る79.9万トンと予測される。国内生鮮消費量及び輸出量も減少が見込まれる。

世界のタンゼリン/マンダリン需給

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>生産量</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>中  国</td>
<td>17,000</td>
<td>17,850</td>
<td>19,400</td>
<td>20,200</td>
<td>20,600</td>
<td>21,200</td>
</tr>
<tr>
<td>E  U</td>
<td>2,927</td>
<td>3,215</td>
<td>3,474</td>
<td>3,081</td>
<td>3,432</td>
<td>3,075</td>
</tr>
<tr>
<td>日  本</td>
<td>846</td>
<td>1,124</td>
<td>1,046</td>
<td>933</td>
<td>1,070</td>
<td>990</td>
</tr>
<tr>
<td>米  国</td>
<td>660</td>
<td>700</td>
<td>810</td>
<td>861</td>
<td>937</td>
<td>799</td>
</tr>
<tr>
<td>韓  国</td>
<td>667</td>
<td>672</td>
<td>697</td>
<td>635</td>
<td>600</td>
<td>560</td>
</tr>
<tr>
<td>イタリア</td>
<td>305</td>
<td>370</td>
<td>350</td>
<td>255</td>
<td>240</td>
<td>265</td>
</tr>
<tr>
<td>イスラエル</td>
<td>178</td>
<td>190</td>
<td>205</td>
<td>190</td>
<td>243</td>
<td>265</td>
</tr>
<tr>
<td>南アフリカ</td>
<td>171</td>
<td>193</td>
<td>203</td>
<td>226</td>
<td>252</td>
<td>230</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>202</td>
<td>171</td>
<td>152</td>
<td>154</td>
<td>153</td>
<td>153</td>
</tr>
<tr>
<td>合  計</td>
<td>24,489</td>
<td>26,474</td>
<td>28,294</td>
<td>28,735</td>
<td>30,115</td>
<td>29,862</td>
</tr>
<tr>
<td>加工前消費</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>中  国</td>
<td>15,650</td>
<td>16,524</td>
<td>18,053</td>
<td>18,910</td>
<td>19,413</td>
<td>20,060</td>
</tr>
<tr>
<td>E  U</td>
<td>2,493</td>
<td>2,848</td>
<td>3,206</td>
<td>2,983</td>
<td>3,274</td>
<td>2,905</td>
</tr>
<tr>
<td>日  本</td>
<td>780</td>
<td>1,041</td>
<td>959</td>
<td>860</td>
<td>989</td>
<td>918</td>
</tr>
<tr>
<td>米  国</td>
<td>876</td>
<td>885</td>
<td>966</td>
<td>1,080</td>
<td>1,150</td>
<td>1,100</td>
</tr>
<tr>
<td>イタリア</td>
<td>662</td>
<td>1,160</td>
<td>1,003</td>
<td>1,065</td>
<td>1,278</td>
<td>1,020</td>
</tr>
<tr>
<td>イスラエル</td>
<td>846</td>
<td>1,124</td>
<td>1,046</td>
<td>933</td>
<td>1,070</td>
<td>990</td>
</tr>
<tr>
<td>南アフリカ</td>
<td>667</td>
<td>672</td>
<td>697</td>
<td>635</td>
<td>600</td>
<td>560</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>1,869</td>
<td>1,839</td>
<td>1,743</td>
<td>1,714</td>
<td>1,654</td>
<td>1,654</td>
</tr>
<tr>
<td>合  計</td>
<td>23,057</td>
<td>24,847</td>
<td>26,527</td>
<td>27,047</td>
<td>28,410</td>
<td>28,340</td>
</tr>
<tr>
<td>輸入量</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>トルコ</td>
<td>406</td>
<td>512</td>
<td>610</td>
<td>575</td>
<td>710</td>
<td>700</td>
</tr>
<tr>
<td>中  国</td>
<td>702</td>
<td>744</td>
<td>786</td>
<td>658</td>
<td>587</td>
<td>550</td>
</tr>
<tr>
<td>イタリア</td>
<td>307</td>
<td>501</td>
<td>346</td>
<td>465</td>
<td>515</td>
<td>420</td>
</tr>
<tr>
<td>E  U</td>
<td>404</td>
<td>349</td>
<td>287</td>
<td>230</td>
<td>236</td>
<td>250</td>
</tr>
<tr>
<td>南アフリカ</td>
<td>135</td>
<td>153</td>
<td>157</td>
<td>190</td>
<td>211</td>
<td>180</td>
</tr>
<tr>
<td>イスラエル</td>
<td>78</td>
<td>78</td>
<td>90</td>
<td>87</td>
<td>98</td>
<td>91</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>48</td>
<td>29</td>
<td>48</td>
<td>42</td>
<td>40</td>
<td>34</td>
</tr>
<tr>
<td>合  計</td>
<td>2,165</td>
<td>2,483</td>
<td>2,330</td>
<td>2,177</td>
<td>2,464</td>
<td>2,319</td>
</tr>
</tbody>
</table>

世界のタンゼリン/マンダリン需給

米国のオレンジ生産量は20年続けて減少している（単位：百万ｔ）

年間は、北半球は11月～10月、南半球は翌年
現地調査報告

フランス：農業者の所得は改善されるか

フレンチ・ジェネロでは、契約を完了する前に機械の取り引きに対するSVP（赤字売却制限価格）の10％引き上げると、契約後の販売促進（価格引き下げ等）を理由とする割引や払戻金の規格が強められ、この二つの措置を実施するとしている。その他の取引価格、それを記した契約内容は従来のように手間をかけずに売手側が求められる。契約書には業務上の一定の生産コストと市場の価格を記載し、売手はこれらの価格を考慮して価格を決める。（もともと書面契約は牛乳、農作物の取引では義務されており、その他の部門では義務ではない。）それ以外、供給取引の問題を扱う援助金の金額を強化することなどが組み込まれた。

エタ・ジェネロでは、契約後の販売促進の割引は契約価格の35％未満の額とし、販売量の25％までとすることが決められたが、法規には明記されていない。適用法に明記されるもので、45％という数値は、一つの食事に選ばれるが、一つの服用を一つおもしるかは許され、一つの服用を一つおもしるかは許されないものである。

SVPとは、それ以下では小売が禁止される価格である。フランスの商法では、10から小売が価格を下回る価格で販売することが禁止されていたが、赤字の概念を補完するために1995年に法律でSVPが定義された。例えば、作業者組合が単価110円のものを量販店グループに市場を独占する場合、販売量の30％に応じた割引を10％とする、契約書に記される数値は100円となり、これがSVPとされた。契約後、市の販売促進などの割引や払戻金があれればそれは考慮されなかった。その後数回の法改正で、販売促進などの割引の一部、後に全額を差し引いた額がSVPとされ、SVPが実質上引き下げられた。エタ・ジェネロの参加者の多くは、SVPの低下が量販店価格の競争を激化し、農業者所得の減少を懸念したと考えたようだ。農業経営者団体の最大組織であるFNSAはSVPの15％の引き上げを要求していた。

マスコミを見る限り、農業者に同様する人はかなり多い。しかし、消費者団体のUFC-クレジットは、2月1日、食料品のSVPの10％の引き上げで、消費者の負担が50億円（6,750億円）増えるかもしれないと警告を発した。小規模農業経営者団体である「農民連盟」は、流通業者のマージンを保証するSVPを引き上げても、農業者の所得は増えないだろうと批判的だ。

量販店は圧倒的に強い立場にある。大手量販店の仕入れセントナーは5つで、生産者にとっては、量販店の納入者リストから外されることを恐れ、法規の中、生産者組織化を促す措置も含めてはいが、これまでも、何回も相次ぎの措置は何度も採られてきた。エタ・ジェネロの関会前に、農業生産者、加工業、量販店グループの間で、お互いに尊重し合うしようという同意書が調印されたにもかかわらず、それと並行して開かれていた来年度の価格交渉の場では、量販店グループが生産者組織に対してこれまで以上にプレッシャーをかけていると報じられた。今回提唱された措置で、農業者所得は改善するのかどうか、疑問は大きい。

豪州：ピンク色のノン新種育成

果皮の色がピンク色を帯びた2種類の新しいナシが生まれた。これ等のナシは2018年上半期に豪州のスーパーマーケットで販売される予定である。この2つの中のナシは「ランヤ(Lanya®)」と色で染め上げるだろう。この2つのナシは「ランヤ(Lanya®)」と

豪州現地情報調査員 トニー・ムーディー
「デリザ(Deliza®)」といい、ビクトリア州の研究機関である園芸振興センターで数年かけた交配試験の結果育成されたもので、最近アジア市場で試験販売を行ったところである。この研究を担当したTomkins博士によると、あるスーパーマーケットの仕入れ担当者は売場に商品を売りたいと考え、試験販売を希望しているが、消費者に強く支持される訳ではないと説明している。

2004年以降、豪州のナシ生産は40%減少している。輸出も2003年の18,000トンから約8,000トン程度へと減少している。

同博士は、その原因の一部はオーストラリアのナシ生産のどれが伝統的なオーストラリア産品であるため、販売が増大していることがある。しかし、市場での販売は依然として増大している。

「デリザ」の栽培実績は、販売の拡大が期待されるもので、図の結果を基に販売を増大する必要がある。市場での販売の拡大は、消費者の嗜好を反映してきていると考えられている。

タイ現地情報調査員：坂下 鉄

タイのバインアップルがG.I.認定ほか

トラート県の農家は「シートン」品種のバインアップルがGI認定を受けたことにより、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られ、価格形成の成功を図っている。国内外のプレミアム市場での需要増が見られるようになった。
一方、国外市場の開拓についてはまだアイデアがないようだ。かつて中国に輸出したことがあるが、果肉が黒ずんでいたのが問題となっ
た。また、韓国に輸出した際には、初年度にコンテナ2本の発注があったが、その後はストップしたままだ。現在、ドバイからの引き合い
があるが、売買合意には至っていない。なお、加工品に関しては原材料の価格次第なのだ。（この記述は昨年12月に作成された）

＜イースタン・フルツコリドリ・プロジェクト＞

商務省大臣のソンドジット氏は、東部地域の「イースタン・フルツコリドり・プロジェクト」が開催
で承認されたと述べた。同プロジェクトはタイが規格基準を持った熱帯果実の生産地として世界レベルのハブとなることを目指すものである。

また、開催では2018年度予算として、同プロジェクトに基づく「生産物
の管理」、「マーケティング」、「開発研究」、「農家および組織の開
発」、「情報システムの管理」の5項
目に8,000万ペーストを支出するこ
とが承認された。さらに、タイを「世
界のフルツの都」とすることを目標とした覚書が商務省、タイ商工
会議所、チェンマイ大学、ブリュ大学の4者間で交わされ、国内外の
消費者が安心してタイ産果実を消
費することができるようにThai GAP
やQ-GAPなどの規格基準をこれ
らの機関が協力して設定することと
した。また、生産者ネットワークや
市場ネットワークを構築し、タイ産
果実の品質基準の向上を図るこ
とである。これらの協力関係は覚
書の署名が終わると同時に施行さ
れる。

大臣は、「様々な種類の果実栽培
培ができるという可能性と既に立った果実
の味は国内外の市場で大きな需要を喚
起できる」と述べ、「今回、各関係機関が
協力することで、タイ産果実の競争力を
高め、品質と価格の向上に努め、タイを
『世界のフルツの都』へと導き、世界
市場でタイ果実が成功することを可
能とする」と述べた。覚書は果実生産者
と国内外の仲買業者の間の果実市場を
繋ぐ包括的なものである。このため、
生産者にとっては、市場での販売が保
証される。また、覚書にはタイ産果実の
品質規格や集荷方法、国内外への輸
送方法および流通方法について明記さ
れている。このため、消費者にとっても
安全な果実を消費することができ、信頼
性を築くことができる。

また、開催では、タイを「世界のフル
ツの都」とするための包括的販売戦略
計画についても承認された。主な内容
は以下の通りである。

1) プレミアムおよび準プレミアムタイ産
熱帯果実の生産規格、販売規格を設定
し、国際レベルで認定される品質規格
を持つ果実を生産することで、生鮮およ
び加工果実産業を振興する。加工品に
ついては新製品を開発し、魅力のある
パッケージを開発する。

2) 効率的で、オンラインシステムをリン
クした販売経路を開発する。オンライン
市場や先物取引、国境貿易を育成し、
拡大する。

3) タイの果実取引業者への財政支援を
強化する。果実産業の品質向上や発展
のために業者が投資することができよう
に特別な金利で果実生産者、販売業者
に融資を行う。

4) 需要を生み出すために積極的なPR
を行う。購買力のある地域や観光地で
のイベント活動のほか、海外市場でも積
極的なPR活動を行う。また、ブランド化
を積極的に進める。【2018年2月の為
替は1バーツ＝約3.4円】

| 加工用パイナップル（未洗）の月別農家原価（2015年1月～2018年1月） |
| 年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 2016年 | 10.43 | 10.54 | 9.75 | 9.33 | 10.35 | 11.95 |
| 2017年 | 7.62 | 6.37 | 6.70 | 6.12 | 4.82 | 4.06 |
| 2018年 | 3.32 | |
| 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 平均 |
| 10.58 | 10.70 | 11.26 | 11.85 | 12.16 | 10.52 | 10.35 |
| 12.22 | 11.50 | 10.85 | 10.69 | 9.96 | 8.34 | 10.50 |
| 4.26 | 4.28 | 4.32 | 4.11 | 3.15 | 3.08 | 4.95 |

出所：農業経済局・単位：バーツ/kg